

第74回 規制改革推進会議からの提案

5月末に公表された規制改革推進会議の報告書は、デイサービス経営者の視点から読み解くと、とても共感のできるものでした。介護サービスにおける人員配置基準について、変えていくべきポイントを次のように指摘しています。

「介護サービス施設等の人員・設備・運営に関する基準及び介護報酬制度等の見直しに当たっては(略)各事業者の創意工夫による柔軟かつ効果的かつ効率的なサービス提供が可能となるよう(略)サービスによりも

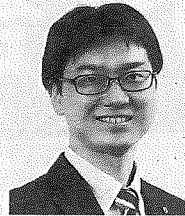
たらされた利用者のAD

L (Activities of Daily Living: 日常生活動作)

の改善、褥瘡の発生等の状態変化(アウトカム)

介護の未来

2040年に向けて



北村直也社長

デイサービスにおける配置基準の未来を考える

を重視する評価を拡充していくなど、介護サービスの質を評価する仕組みの見直しを検討すること(2025年5月、内閣府規制改革推進会議「規制改革推進に関する答申」53頁より、一部抜粋)。

これまでの介護保険制度では「人員配置」と「サービス内容」を定め、ルールに基づいて提供されたサービスは一定の質を満たしているものと見なし、介護報酬の支払を行ってきました。

今回の提案では「アウトカム評価」を3本目の軸として、関連する報酬を拡充するとともに、人員配置基準などに柔軟性(1日6時間)を認める

を有する制度へと変えていくことを求めているように思われます。

デイサービス業界においても、慢性的な人手不足により閉業に追い込まれる事業所も決して少なくはありません。人手不足への対応という点でも、アウトカム評価をベースに配置基準の柔軟化が認められる制度ができるならば、歓迎すべきことだと思います。

例えば、①ADL維持等加算が算定され、②運営指導において指摘・指導がなく、③重大な事故報告事案がない。

このような事業所は、常勤職員の短時間勤務(1日6時間)を認めるなどの柔軟化を図ることは、十分に考えられるのではないのでしょうか。

デイサービスのアウトカム評価を踏まえた配置基準の柔軟化について、今後ぜひ考えてもらいたいと願っています。

商材・サービス

北村 直也 (きたむら なおや)

DSセルリア株式会社 代表取締役社長/理学療法士

一般社団法人日本デイサービス協会 理事

一般社団法人全国介護事業者連盟 千葉県支部 副支部長

18年にDSセルリア(株)取締役に就任。口腔と身体のリハビリに特化したデイサービス「トータルリハセンター」を首都圏に展開。21年代表取締役社長に就任。理学療法士としての経験を活かし、多くの方にリハビリや口腔の知識や技術を届けたいと、多職種による組織マネジメントに注力している。